



那賀川中学校の生徒と描いた壁画



春らしさ満開の一枚絵



防潮堤に人がいっぱい



手のひらでサクラの花びらを表現

細部まで丁寧に着色

那賀川町出島海岸の防潮堤には、平成2年に約7000人によって描かれた長さ2・8kmに及ぶ壁画がある。当時は町内外から見物人が集まる観光スポットだったが、長い年月を経て、壁画は色あせてしまっている。これを再創造し、人々の集う場所にしよとするプロジェクトが進行している。実行委員会は那賀川町商工会青年部を中心とした地元住人などで組織され、事業資金はクラウドファンディングで募った。

まず、9月29日に防潮堤一帯の清掃を実施。参加団体は、那賀川連合協議会などで約100人が力を合わせた。不法投棄物を除去し、清掃前は舗装道路にかかると生い茂っていた草木を、きれいに刈り取っていた。

防潮堤のコンクリートは、経年劣化、紫外線、潮風などが原因で表面にかなり凹凸が生じている。そこで、10月8日～10日、15日に南部テクノスクールの協力の下、壁画の下塗りを実施。高圧洗浄機で汚れや塗装物を除去し、次にシーラーで下塗り、最後に白色の下地処理を行った。

このように多くの協力と段階を経て、11月17日、プロジェクトに賛同した人たち約300人

が描画に着手した。プロジェクト初年度の令和元年は、テーマの「春」に沿ってデザインされ、約200mの壁画が華やかに彩られた。花畑などの植物や鳥・うさぎなどの動物、かつこい写実的なものから、かわいくデフォルメされたものなど。クオリティの高い作品ばかりで、描いた人たち、見る人たちにとって楽しい壁画となった。

参加した那賀川中学校3年の寺西 功さん、松木 惇皓さん、相原 功悠さんは、「これから様子を見に出島海岸を訪れたい。また、この付近に建てられている休憩所や道を整備して海に出やすくなれば、さらに人も集まるのではないか」と話していた。

出島壁画再創造プロジェクト実行委員会副委員長の春野 祐治さん（33歳）は、「今日多くの子どもたちが防潮堤付近を走りまわるなど、わいわいにぎわっていた。プロジェクトが完結するまでに何年かかるかは分からないが、この取組を続けていきたい。来年、再来年も予定しているのだから、市民の皆さんにぜひ参加してほしい」と意欲を示した。